

3/28早稿

論説

2023.3.28

ロシアに撤回を求める ペラルーシに因

ロシアのプーチン大統領が韓国ペラルーシに核兵器を配備するの方針を明らかにした。歐米との対話を「遮断め、核使用の危険も露骨化させるものであり、断じて容れられない。撤回すべきだ。

プーチン氏は核兵器を国外配備する

口実に英國によるウクライナへの砲撃を「報復」と主張し、米国が北大西洋条約機構（NATO）の欧洲加盟国に核兵器配備（NATO）をたけども擁護した。だから露骨に、ペラルーシへの配備を正当化する根拠にはなり得ない。

米化やヨーロッパが使用されたら

れば、手を染めた深刻な健康被害が発生され、広島の被爆者団体も世界反戦の声明を出した。ただ

し、ロシア自身も米化やヨーロッパも保有していないが、プーチン氏も

認めている。

プーチン氏は核兵器の選択手段として彈道ミサイル「イバカナル」一式をロシアで開発され、共同開発などとも



二〇二三年に行われた
発射演習、タス・共同
ニキペラル

述べた。

核が使用されれば被害は地球規模に及びかねない。それだから核に対する威嚇は全人類への危しとだり、敵に倒れておいたが、もし自分がペーチン氏は敵の倒錯を振り返してしまった。核大国として無責任極まる。

ペーチン氏と中国の習主席は

半島が「十」日間で爆発した北朝鮮

は「核戦争のリスクを効果的に減らし、核保有国間の武力衝突を避けるためのため」、北朝鮮は

その西の根も枝があつたが、共

同声明では止戻す行動である。

外の核配備を自説し、配備済みの核を撤去すべきだと主張した。

その西の根も枝があつたが、共

同声明では止戻す行動である。

ペーチン氏は「核兵器を交わした

安金を保証する覚書を交わした。

ロシアが「核兵器を皮故に

シカクハイナに侵攻した。今回

の核配備によって歐州の核軍縮の

流れにも逆行しようとしている。